

第 19 回日本集団災害医学会総会・学術集会 一般演題
会 期: 平成 26 年 2 月 25 日 (火) ~26 日 (水) ; 会 場: 東京国際フォーラム

【当院における緊急連絡網運用に関する検討 ～緊急連絡網と一斉メール併用訓練を通して～ (第 2 報)】

An analysis on hospital exercise for emergency call Tree combined with e-mail network, the second report

市立八幡浜総合病院救急部 ○宮谷理恵、川口久美、越智元郎

—抄録—

【背景と目的】

当院は前年実施した連絡網運用訓練の経験を生かし、職員用災害時一斉メールと電話による緊急連絡網を別経路で運用する方針とした。今回新しい手順で訓練を行い、その効果と今後の課題を抽出した。

【方法】

2013 年 6 月 5 日に実施(日時は予告せず)。対象は全常勤職員 221 人。訓練の想定: 火災により患者避難が必要という連絡で、院長が全員召集の方針を決定し連絡網を始動。各所属の連絡網筆頭者は、所属の全経路から連絡終了の電話が入った時点で訓練を終了。訓練後、連絡先・時刻などに関する報告用紙を回収し集計。

【結果】

回答率は 98.1%。訓練開始 1 時間以内に連絡を受けた者は 167 人 (76.9%)、22 人 (10.1%) は勤務中。上記 167 人中、電話連絡で確認した人が 88 人、メールは 71 人(15 分後は 61 人と 64 人)。なお、訓練時点での緊急連絡メール登録者は 175 人(登録率 77.4%)。

【考察および結語】

抜き打ち訓練であったが、76.9%の職員が連絡開始 1 時間以内に連絡を受け取った。うち電話連絡で確認した人が過半数であったが、15 分後ではメール連絡が上回り、迅速性については一斉メールの有効性を示唆した。今後はメールの登録率向上を図りたい。